

## テーマ シミュレーションを用いたiNPH認知症ケア教育教材の開発

研究者 鳥取大学医学部保健学科 山本美輪 三好陽子 吉村純子

### 概要

我が国では、高齢(老年)人口の高齢化が進行し、認知症や要介護の高齢者の増加が鳥取県においても問題となっている。それに伴い“治療可能な認知症”である特発性正常圧水頭症(以下iNPHとする)認知症ケアに対する看護職やケアスタッフの質、および量の担保は喫緊の課題である。iNPH認知症は早期発見により治療可能であることや、高齢者の背景により周辺症状の出現がそれぞれ異なり、その対応(ケア)次第で認知症の経過に大きな影響を及ぼす。加えて認知症状への対応には多くの経験知が必要となるが、通常教育機関での学習のみでは、十分な対応が困難な状況である。そこで本研究では、iNPH認知症への適切な対応(ケア)を事前にシミュレーションで経験できるシリアスゲームを用いたiNPH認知症ケア教育教材を開発することを目的とする。

### 研究内容

#### シミュレーションを用いた認知症ケア教育教材の方法論検討とiNPH認知症認知度調査

##### シミュレーションとは？

ある現象を模擬的に現出すること。現実想定される条件を取り入れて、実際に近い状況をつくり出すこと。模擬実験で、近年看護教育においてこのシミュレーションを用いた事例演習が活用されている。

シミュレーション教育は、まずアメリカ、欧州、続いて日本に急速に普及しつつある。医療におけるシミュレーション教育の魅力は、患者への負担がなく、繰り返しの学習が可能にあることにある。従来型の方法より、臨床での実践を学習者に実感させることができる有効な学習方法であるといえる。

##### iNPH認知症とは？

iNPHは「治療により改善する認知症」で、iNPHが疑われる患者は現在30万人以上いる。これはパーキンソン病の約2倍。ただし残念なことに、iNPHという病気は今まであまり注目されておらず診断・治療されないままになっていることが多い。しかし、iNPHの治療は、わが国のように高齢化が急速に進む社会にあっては、本人の自立を高め、介護の軽減をはかるのに役立つ。

##### シミュレーションを用いた認知症ケア教育教材の方法論検討

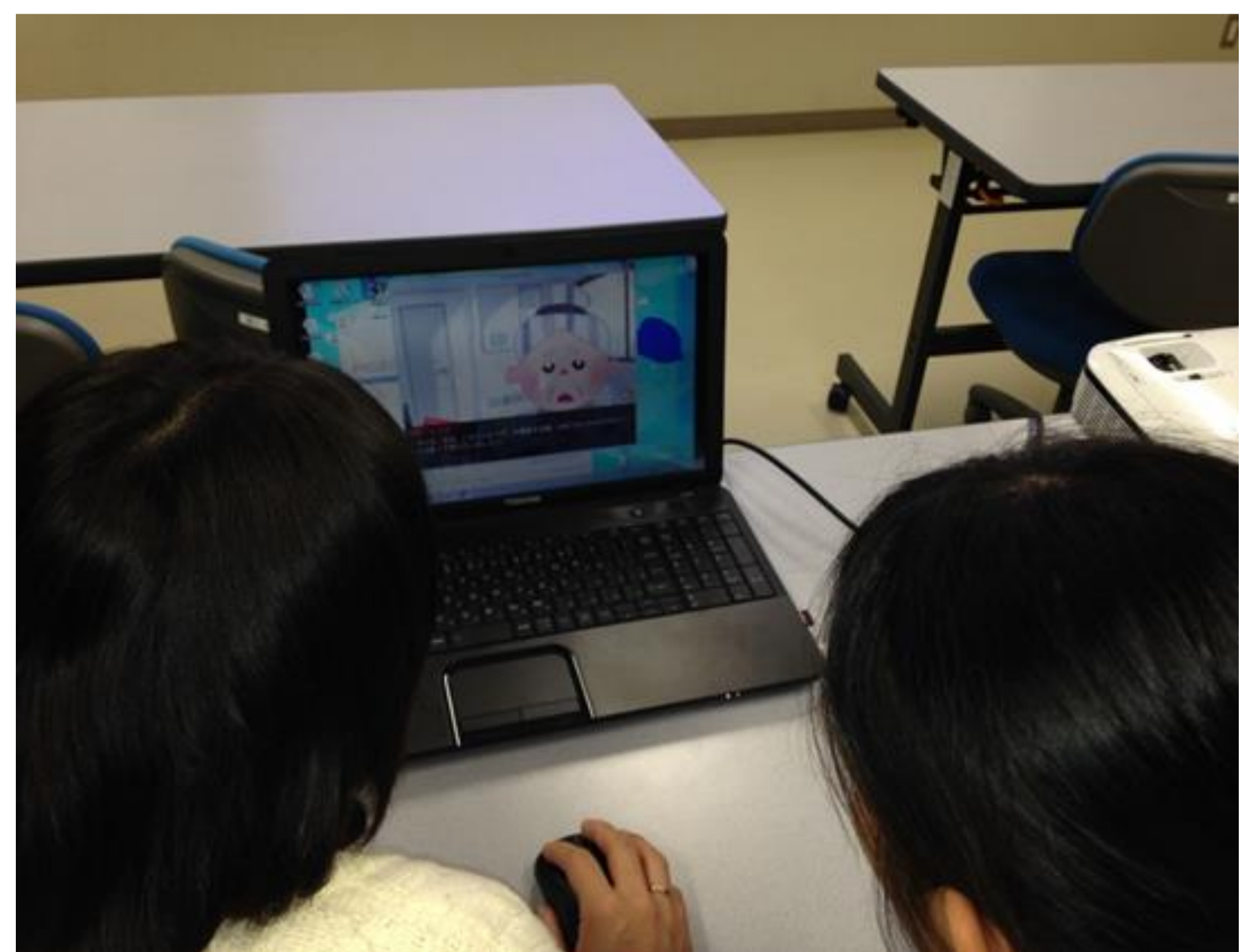
認知度の最も高いアルツハイマー型認知症のシリアスゲームにて認知症ケアがシミュレーション教育できるゲームを開発し、日南病院の医療従事者100人にパソコン上で行ってもらい、前後で「認知症高齢者への態度尺度: Yamamotoら、2015」を用いて評価を行った。その結果、ゲーム後に有意に認知症高齢者への態度が好転した。またフリーアンサーより「ゲームで楽しく学べた」や「認知症ケアに興味を持てた」と、シミュレーションを用いた認知症ケアにおけるご意見を頂いた。

##### iNPH認知症の認知度調査

iNPH認知症に関する認知度を明らかにするために、米子市に位置する高齢者施設に勤務するスタッフ200人に独自で作成したアンケート調査を行った。

その結果、認知症の種類別認知度では、アルツハイマー型認知症が最も高く「知っている」と回答した対象者は168人(94.9%)、次いで脳血管性認知症が141人(79.7%)、レビー小体型認知症125人(70.6%)、前頭側頭葉型認知症(ピック病含む)114人(64.4%)、最後にiNPH型認知症36人(20.3%)と最も低かった。

○残された課題: 認知度調査の結果と関連文献によりiNPH認知症を基礎からわかるようなシナリオを作成し、シリアスゲームを開発していく必要がある。



Goo 辞書 シミュレーション <http://dictionary.goo.ne.jp/jn/100864/meaning/m0u/>

高齢者の水頭症 iNPH.jp [http://www.inph.jp/about\\_001.html](http://www.inph.jp/about_001.html)

### 応用分野

介護、福祉工学

### 連絡先

鳥取大学医学部保健学科 教授 山本美輪  
連絡先 (m-yamamoto@med.tottori-u.ac.jp、tell: 0859-38-6311)